

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/09/10 ～2019/09/30)

1. 勉学の状況

私はフランスのパリ東大学(Université Paris-Est Créteil)で、Intercultural Management について、経済学部とマネジメントコースで学んでいます。フランスの大学なので、どの学部も基本はフランス語で授業が開講されていますが、経済学部と IAE というビジネスに関するコースはほとんどの授業が英語で行われています。よって私も授業は英語で受けています。英語で開講された授業は半分近くが留学生であり、フランス人学生も先生も含めてほとんどの人が英語のネイティブではないので、比較的ゆっくりわかりやすい英語で授業を受けることができます。

渡航前に予定していた4つの授業に加えて3つの授業を選び、計7つの授業を受けることにしました。このうち1つはオンライン授業なので出席は初回と最後のみです。またこれに加えて1つフランス語で開講されている授業を聴講しています。渡航前に手に入れていた授業リストは全てを網羅していたわけではなかったようで、こちらに来てから学生用の時間割サイトで授業を調べて選びました。授業によって始まる週も終わる週も異なり、さらに毎週同じ時間に同じ場所で開講されているわけではありません。教室番号も時間帯も曜日も週によって異なるので、こまめに確認するようにしています。これを確認する時間割サイトが見つらい上に、授業が変則的であるという事実を知らなかったため、一周目は逃したり、誤った教室に行ったりしてしまいました。現在は使い方にも慣れたので、このようなことを二度としないように気をつけています。こちらで受けている授業は History of globalization、Intercultural Management、Business English、Doing business abroad、Corporation social responsibility、Angraise oral、French for beginners の以上7つです。

私自身、フランス語は一年時に初修外国語としてマスターを一年間履修しましたが、二年次に何もフランス語の勉強はしなかったためほとんどを忘れてしまいました。留学決定後から改めて勉強をはじめましたが、最低限の言葉しかわからない状態です。こちらで受けている授業の1つは留学生向けのフランス語初心者の授業です。はじめにレベル分けテストがありましたが、私のフランス語能力では問題文を正しく理解することさえできませんでした。留学生の友人は8年フランス語を勉強しているものの中級だということなので、中級に要求されているレベルが高いのだと思います。先生がとても楽しく教えてくださるので、他の留学生とともに楽しくフランス語を学ぶことができます。また聴講している授業は内容に興味があったものの、フランス語開講だったために、フランス語の勉強も兼ねて聴講することになりました。今はスライドに書いてある内容を理解するので精一杯で聞き取ることがほとんどできませんが、後半には少しはわかる単語も増えるように現場つ

で勉強したいと思います。

2. 生活の状況

こちらでは大学から4駅ほど離れたところでホームステイをしています。フランス人女性の家庭で、一部屋をお借りしています。家主の方はフランス語しか話せないものの、フランス語がほとんどできない私にもたくさん話しかけてくださり、ジェスチャーやGoogle翻訳を使いながらフランス語での会話を楽しんでいます。家、学校の近くにそれぞれスーパーマーケットがあり食品はそこで買うことができますし、学校から一駅行った先には大きなモールもあるので服や靴などの買い物も困りません。日本食はスーパーにも少し売られていますがよく分からないなと思ったので、パリの中心地にある日本食品を扱うお店に行きました。オペラ地区には日本をはじめアジアの商品を扱う小売店、レストラン、本屋が集まっており、日本と全く同じものが手に入ります。ユニクロや無印良品といった日本ブランドも出店しており、生活しやすい環境であると言えます。

大学がある地域はクレテイユ、家のある場所はサン・モーリスとパリではないのですが、パリまではとてもアクセスしやすい環境です。メトロで20分程度あればパリの中心地まで行くことができます。何よりも素晴らしいと思う制度は多くの施設がEUに住む若者は無料になることです。私自身、美術には詳しくなく、日本では興味がないのでほとんど触れる機会がありませんが、これを機に美術館に訪れています。そして個人的に幼い頃からエッフェル塔が大好きなので、何度も訪れ、エッフェル塔前の公園でピクニックをしています。何度見ても美しく、感動するので、こちらに滞在している間に出来る限り訪れたいと思います。

3. その他

ここで特筆しておきたいこととしては、日本からフランスの渡航で大幅な遅延にあったことです。私は土曜日の朝9時成田発の飛行機に乗り、11時に韓国・仁川空港着、乗換時間1時間で、正午仁川発フランス行きの飛行機に搭乗し、フランス・シャルルドゴール空港に同日17時着というフライトスケジュールでした。しかしこの日は韓国に台風が接近しており、出発は予定通りだったものの、仁川空港に着陸することができませんでした。一度、台風の中着陸を試みたようですが、本当に揺れが激しく、機内は多くの人が吐く音が聞こえ、とても辛い環境でした。結局、一時着陸、機内待機をした後、目的の仁川空港に到着できたのは18時です。日本から韓国へのフライトで9時間かかりました。もちろんパリ行きの飛行機は逃してしまったので、一晩空港泊をし、次の日の正午12時発という丸々1日遅れの飛行機に搭乗することになりました。このような経験は初めてだった上に、私は飛行機遅延の保険に入っていなかったため、もし航空券買い直しになったらどうしようかと不安に思っていたのですが、そのまま代わりの航空券を紹介してもらえたので特に問題は起きませんでした。この経験を通して、飛行機遅延の保険は必ずしも必要なわけではない

ということを学びました。航空会社にもよるとは思いますが、そういったことも検討して保険を考えるといいと思います。

海外派遣留学プログラム報告書

(2019/10/1~2019/11/30)

1 勉学の状況

パリ東大学での勉強も大半が終わり、残すは数回の授業とテストのみとなりました。半年の留学はあっという間で、もう終了してしまうことをとても悲しく感じています。残された授業でもしっかり友人とコミュニケーションをとり、楽しく学んでいきたいと思えます。まだ全てのテストが終了したわけではありませんが、1つ1つの授業について軽く触れていこうと思います。

Corporate social responsibility

この授業は IMBA という国際ビジネス修士課程の授業です。具体的な企業の例について様々な視点（人権、環境、健康等）や対象（報告書、web、CM等）から CSR について分析していきます。グループワーク、プレゼン、ディスカッションがベースとなっており、必然的に英語で議論する機会も多く、積極的に発言することが必要です。修士課程ということもあり、考え方や知識が到底及ばずなかなか発言できない場面もありますが、みなさん親切にグループに誘ってくださったり、私の意見も尋ねたりしてくださるので楽しく勉強することができました。テストも明確な正解があるものではなく、自分の意見を論じるものだったので、最善は尽くせたかなと思います。

History of globalization

履修している授業唯一の経済学部の授業です。こちらの単位の数え方 ECTS で2しかないにもかかわらず、2人で30分のプレゼン、グラフをベースとする3枚のレポート、最終テストが課されました。とても負担の重い授業です。また授業後半になるにつれ、扱う論文や授業中に数学が出てくるようになり、理解することが難しくなっていました。

Doing business abroad

マネジメントコース三学年の授業です。履修している授業の中で最も興味深く学んでいます。この授業は半数近くが留学生であり、互いにイメージやステレオタイプについて話したり、1つの場面についてそれぞれの視点から議論したりと、留学したからこそ得た環境での学習だなと感じています。

Angraise oral

私は留学生の制度上、文学部生として受け入れられているので、必ず1つは文学部の授業を受けなければなりません。しかし文学部の授業はほとんどがフランス語開講で、私には到底単位を取れるようなものではなかったために、相談した結果、フランス人学生向けの初級の英語の授業を履修しています。授業は全て英語で行われ、プレゼンや文章中で使

える会話用言を学ぶものです。留学生は私 1 人ですが、基本的にはスムーズに学習できています。しかし 3 人グループで行った 10 分程度のプレゼンはとても難しかったです。なぜなら初級の英語の授業であるため生徒のほとんどが、英語が苦手なため、英語で会話ができないからです。私が英語で話し、あちらがフランス語で返すという会話を繰り返しましたが、結局最後まで意思疎通ができませんでした。同じグループになった学生さんには申し訳なく思います。これもフランス留学の特徴の 1 つかなと思い、いい経験になりました。

French for beginners

留学生向けのフランス語の授業です。週一回 3 時間、少人数で楽しく発音を中心に学んでいます。初回から受講生徒が 1/3 程度になってしまいましたが、そのぶん仲は深まっています。しかしフランス語学習はなかなか難しく、使いこなせるようにはなっていないのが現状です。

Intercultural management

こちらはオンライン授業なので、初回授業以来、受講はしていません。オンラインのテキストを読み進めて自習しています。また最終レポートの課題が、フランスに移住し働いている方へ職業経験についてインタビューしてまとめるというものだったので、フランス人の友人にインターン先の上司の方を紹介していただき、直接インタビューすることができました。企業としても個人的にとっても興味あるところだったので、インタビューで用意していた質問だけでなく、意見も交わすことができ、とてもよい機会になりました。これから頑張ってみます。

2 生活の状況

ストライキ

この報告書を書いている 2019/12/05 現在、無期限ストライキが起きています。メトロ、路面電車、国鉄、バスなどほとんどの交通機関、また学校や空港のスタッフなど様々な職業の方々も参加し、大規模なストライキとなっています。本来、授業がある日ですが、メトロが止まっているため授業はありません。いくつかのテストはストライキのために、日程が一週間から二週間前倒しになりました。ゆとりあるテスト日程だったものが、三日連続になり大変さが増しました。メトロはストライキ期間中全てが止まっているのではなく、時間帯や日によって止まる路線が変わります。今日はどこが動いているか、何時に電車に乗らなければならないか、いつストライキが終わるのか、毎日確認しています。また過激なデモも行われているようですが、私の生活圏では問題ありません。近づかないように安全に気をつけています。

体調管理

気候の変化、食生活の違いなどから体調は崩しやすいので、体調管理に気をつけていますが何度か崩しました。まず到着して一週間は微熱が続き、ここ最近も風邪をひいてしまいました。喉からくる風邪でしたが、引き始めの段階でのど飴が見つけられず、マスクも使えなかったことが悪化させた原因だと思います。ヨーロッパはやはり乾燥がひどいなど感じています。のど飴は日本から持ってきておくべきだったと反省しています。

海外派遣留学プログラム報告書
(報告期間：2019/12/01~2020/01/31)

1 勉学の状況

私の多くの授業は12月中旬で終了しました。しかし前回の報告書でも触れたストライキの影響が大きく、最後二週間にあった授業・テストは多くがキャンセル、延期になりました。

まず12/5に始まったストライキは1ヶ月近く断続的に続きました。史上最長だそうです。ストライキ状況は路線、時間帯、日程によって異なり、前日夕方5時に発表される情報を確認する必要があります。ラッシュ時間の6:00-9:00、16:00-19:30だけ主要路線を動かすという日が多かったです。バスは本数を減らしての運行がほとんどでした。ストライキ期間中は外出を控え、必要な際はラッシュ時間帯に行動する、バスを使うというように行動していました。

結果的に授業は6つ受講しました。オンライン授業でとっていた Intercultural Management の授業は、一月にある最終回の授業に出席できなくなってしまったので、受講を取りやめました。History of globalization, Doing business abroad, Corporate social responsibility の3つの授業はテストも授業もストライキ前に終わっていたので、無事単位は取れたのではないかと考えています。どのテストもしっかりと授業内容を暗記してなければ解けない問題で、大学に入ってからほとんど暗記をしていなかったため、久しぶりにテスト勉強を頑張りました。留学生向けのフランス語授業である DELCIF、Practice for business English は最終回の授業とテストがストライキの影響でキャンセルになりましたが、中間テストがあったので単位に影響はないそうです。しかし同様にテストがキャンセルになった Anglaise oral の単位はどうなったかわかりません。ストライキで授業がキャンセルになった際に最も困ったことは、その情報が手に入らないことです。どこで告知されているのか最後までわかりませんでした。普段30分かけ電車に通っている学校に、2時間かけてバスで行き、誰も来なくて授業がキャンセルになったことを知ることがほとんどでした。

2 生活の状況

旅行

12月中旬で授業は終わり、1月末日で帰国するまでの間は友人の家に滞在しながら、旅行をしました。フランス・パリは交通の便が良く、ヨーロッパ各国に電車、飛行機、バスの手段で行くことができます。私はバスを使いましたが、片道5000円程度でドイツ、ベルギー、オランダ、スイス、イギリスなどに行くことができました。世界的に有名な土地を気軽

に訪れることができることはヨーロッパに留学するメリットの1つだと考えます。ヨーロッパに住む友人に再会することもでき、いい思い出になりました。

ボランティア

私の留学において、重要な経験の1つがスイスのローザンヌで開催されたユースオリンピックでの公式ボランティアです。1月3日から24日まで友人の家に滞在し、ほぼ毎日公式ボランティアとして活動しました。フランス語が日常的に使われている地域だったので、ボランティアの説明や会話の多くはフランス語が用いられ、会話の実践の場としても貴重な機会になりました。もちろんオリンピックの会場で活動することで新たな知見を得ることができました。オリンピックは決まった年に決まった場所でしか開催されないものなので、今回体験できたことはとても貴重なものだったと幸運に感じています。